

# 2019年度 教科課程

## 言語聴覚士専科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数 )	学年		講義概要
						1年	2年	
基礎医学	医学総論 Medicine	必修	講義	15	(1)	15		言語聴覚士が医療従事者として知っておくべき医学・医療全般についての基礎的事項を理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	解剖学 Anatomy	必修	講義	15	(1)	15		人体の基本的な形態と構造について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	生理学 Physiology	必修	講義	15	(1)	15		生体の活動に関するメカニズムについて理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	病理学 Pathology	必修	講義	15	(1)	15		「病気」の基本的な原理について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	基礎医学論 Introduction to Medical Science	必修	講義	30	(1)		30	基礎医学全般について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
専門基礎分野	内科学(老年医学を含む) Internal Medicine	必修	講義	30	(1)	30		言語聴覚士が医療職として把握しておくべき内科的疾患について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	小児科学 Pediatrics	必修	講義	30	(1)		30	こどもの平均的な成長と発達およびその阻害要因、出生前～小児期における疾患について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	精神医学 Psychiatry	必修	講義	15	(1)	15		ノーマライゼーションの理念をもとに精神疾患について理解できる。国家試験に則した精神医学の基礎知識を身につける。
	リハビリテーション医学 (チーム医療論Ⅱを含む) Rehabilitation Medicine	必修	演習	15	(1)	15		他職種連携の重要性を説明することができる。言語聴覚士としてチーム医療に携わるために必要な知識と役割について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	耳鼻咽喉科学(Ⅰ) Otolaryngology I	必修	講義	30	(1)	30		言語聴覚士が把握しておくべき耳鼻咽喉科的疾患について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	耳鼻咽喉科学Ⅱ Otolaryngology II	必修	講義	30	(1)		30	耳鼻咽喉科学に関する最新の知見を理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎知識を身につける。
	臨床神経学 Clinical Neurology	必修	講義	15	(1)		15	神経疾患の概要と病態、メカニズムおよび臨床に必要な診断・治療について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	形成外科学 Plastic Surgery	必修	講義	15	(1)	15		発声発語器官の形態異常および機能不全への形成外科的なアプローチについて理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
臨床歯科学 Dentistry / Cranio-Maxillo-Facial Surgery	必修	演習	30	(1)	30		発声発語に関連する歯科・口腔領域の解剖生理と言語聴覚士が関与する歯科・口腔外科領域の疾患や治療と臨床的アプローチについて理解できる。臨床と国家試験に必要な知識を身につける。	

# 2019年度 教科課程

## 言語聴覚士専科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位 数)	学年		講義概要
						1年	2年	
音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態 Structure / Function / Disease of Respiratory, Phonatory and Speech System	必修	演習	30	(1)	30		言語聴覚療法を行うために必要な呼吸器系および発声発語器官の構造と機能について習得し、それらの病態と疾患を理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	聴覚系の構造・機能・病態 Structure / Function / Disease of Auditory System	必修	演習	30	(1)	30		言語聴覚療法を行うために必要な聴覚系器官の構造と機能、および聴覚神経生理学について習得し、その病態を理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	神経系の構造・機能・病態 Structure / Function / Disease of Nerve System	必修	演習	30	(1)	30		言語聴覚療法を行うために必要な神経系器官の構造と機能および神経生理学について習得し、その病態を理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	音声・言語・聴覚医学論 Introduction to Sound, Speech, Audiological Medicine	必修	講義	30	(1)		30	音声・言語・聴覚医学について総合的な知識を習得し、臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
専門基礎分野	臨床心理学 Clinical Psychology	必修	演習	30	(1)	30		言語聴覚士として対人援助を行う上で把握しておくべき臨床心理学の基本的な知識と心理療法について理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
	生涯発達心理学 Life-span Developmental Psychology	必修	演習	30	(1)	30		乳児期から老年期までの生涯にわたる心理発達について身体、運動、認知、行動、言語などの各側面から理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
	学習認知心理学 Learning / Cognitive Psychology	必修	演習	30	(1)	30		言語聴覚療法に関連する感覚・知覚・認知・学習・記憶などに関する心理学の実験や理論について理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
	心理測定法 Psychological Measurement	必修	演習	30	(2)		30	閾値の測定や心的印象の数値化などの心理学的測定手法を習得し言語聴覚士が扱う様々な心理学的検査の実施根拠となる心理測定の主な理論、手法について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	心理学論 Psychology Studies	必修	講義	30	(2)		30	認知、思考、行動などにおける心理過程について総合的に理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
言語学	言語学(I)(言語心理学を含む) Linguistics I	必修	演習	30	(1)	30		言語の機能と構造、社会的役割について認知神経心理学的視点から理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
	言語学II Linguistics II	必修	講義	30	(1)		30	言語聴覚療法の実施根拠となる言語機能と脳機能との関連性について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
音声学	音声学(I) Phonetics I	必修	演習	30	(1)	30		音声の性質や構造などの基礎知識を理解できる。国際音声記号(IPA)に則した日本語話者の音声について説明できる。臨床と国家試験に必要な音声学の基礎的知識を身につける。
	音声学II Phonetics II	必修	講義	30	(1)		30	音声とその生成理論について習得し、音声言語臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
音響学	音響学(I)(聴覚心理学を含む) Acoustics I	必修	演習	30	(1)	30		音の物理的側面および聴こえの心理的側面について理解できる。音声の性質について音響学的に分析するための手法を身につける。

# 2019年度 教科課程

## 言語聴覚士専科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数 )	学年		講義概要
						1年	2年	
専門基礎分野	音響学 Acoustics II	必修	講義	30	(1)		30	音声の音響物理と聴覚心理について臨床および国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	言語発達学(I) Language Development I	必修	演習	30	(1)	30		前言語期から児童、青年期までの各発達段階における認知、概念、思考、言語などについて理解できる。
	言語発達学II Language Development II	必修	講義	30	(1)		30	言語発達に関する理論や知見などについて理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	リハビリテーション概論 (チーム医療論Iを含む) Introduction to Rehabilitation	必修	講義	15	(1)	15		リハビリテーションの理念や概念とチーム医療における連携の重要性を理解できる。医学的、社会的、職業的、教育的リハビリテーションについて理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
	社会保障制度 Social Security System	必修	講義	15	(1)		15	社会保障の理念と現代の日本社会における社会保障制度、社会福祉サービスや援助活動、医療との関連性および重要性について理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
	関連法規 Related Regulations	必修	講義	15	(1)		15	言語聴覚士に必要な医療・保健・福祉に関する法規とわが国の医療・保健・福祉システムを理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
専門分野	言語聴覚障害概論 Introduction to Speech, Language and Hearing Impairment	必修	演習	60	(2)	60		言語聴覚障害の基礎知識を習得し、評価・診断および臨床の流れと基本的な手法について理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
	言語聴覚障害診断学 Pathology of Speech, Language and Hearing Impairment	必修	演習	60	(2)	60		言語聴覚療法に必要なインテイクやスクリーニング、評価と診断、訓練技法などについて実践的な演習を行いながら基礎的な技術を身につける。
	失語症I Aphasiology I	必修	演習	30	(1)	30		失語症について基礎知識と症状、タイプ分類などが理解できる。失語症の方との関わり方を実践的に身につける。
	失語症II Aphasiology II	必修	演習	30	(1)	30		失語症と周辺の言語症状について評価・診断・訓練の基本的な知識と技術を身につける。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	失語症III Aphasiology III	必修	演習	30	(1)		30	失語症と周辺の言語障害等について、症例検討を含めた演習を通して臨床に向けた基礎的な知識と技術を身につける。症例報告書の作成手法を理解できる。
	高次脳機能障害学I Higher Brain Dysfunction I	必修	演習	30	(1)	30		高次脳機能障害について基礎知識とメカニズムを理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	高次脳機能障害学II Higher Brain Dysfunction II	必修	演習	30	(1)		30	高次脳機能障害の各症状と評価について具体的に理解できる。高次脳機能検査の種類と実施法および検査バッテリーについて理解できる。
高次脳機能障害学III Higher Brain Dysfunction III	必修	演習	30	(1)		30	高次脳機能障害の評価と訓練について症例検討を含めた演習を通して臨床に向けた基礎的な知識と技術を身につける。	

# 2019年度 教科課程

## 言語聴覚士専科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数 )	学年		講義概要
						1年	2年	
失語・高次脳機能 障害学	臨床検査演習Ⅰ Clinical Examination SeminarⅠ	必修	演習	15	(1)	15		言語聴覚士が行う主な言語機能検査や認知機能検査などの検査バッテリーについて理解できる。
	臨床検査演習Ⅱ Clinical Examination SeminarⅡ	必修	演習	30	(1)		30	言語聴覚士に必要な画像診断について理解できる。CTやMRIについて基礎的な読影技術を身につける。
言語発達障害学	言語発達障害学Ⅰ (脳性麻痺及び学習障害を含む) Developmental Disorder of Speech and LanguageⅠ	必修	演習	30	(2)	30		言語発達障害についての基礎的知識とそれらの特性について理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
	言語発達障害学Ⅱ Developmental Disorder of Speech and LanguageⅡ	必修	演習	30	(2)	30		学内実習を通して対象児との接し方や発達指導の実際について理解できる。対象児の観察・評価・指導・目標設定などについて基本的な知識と技術を身につける。
	言語発達障害学Ⅲ (脳性麻痺、学習障害を含む) Developmental Disorder of Speech and LanguageⅢ	必修	演習	30	(2)		30	言語発達検査や言語発達を促す指導などについて理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識と技術を身につける。
専門分野  発声発語・嚥下障害学	音声障害 Dysphonia	必修	演習	30	(1)		30	音声障害の原因疾患と発生メカニズム、治療や訓練の基本的な技法について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	機能性構音障害 Dyslalia	必修	演習	30	(1)	30		機能性構音障害の発現メカニズムや特徴を理解できる。評価・訓練とその基本的な技法を習得することができる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	器質性構音障害 Dysglossia	必修	演習	30	(1)		30	口唇口蓋裂や舌、口腔、咽喉頭腫瘍その他の器質性疾患による構音障害についての特徴、分類、評価法および訓練の計画と訓練方法の基礎的知識を身につける。
	運動障害性構音障害Ⅰ DysarthriaⅠ	必修	演習	30	(1)	30		運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	運動障害性構音障害Ⅱ DysarthriaⅡ	必修	演習	30	(1)		30	運動障害性構音障害の評価・訓練および他の発話障害との鑑別について総合的に把握し、臨床に必要な検査や訓練方法および発話補助手段について理解できる。
	運動障害性構音障害Ⅲ DysarthriaⅢ	必修	講義	30	(1)		30	発声発語器官の障害について総合的に理解できる。臨床及び国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	嚥下障害Ⅰ DysphagiaⅠ	必修	演習	30	(1)	30		摂食・嚥下に関わる器官と嚥下のメカニズム及び嚥下障害の病態と原因、検査や訓練について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	嚥下障害Ⅱ DysphagiaⅡ	必修	演習	30	(1)		30	摂食・嚥下障害について、チーム医療における多職種連携と言語聴覚士の役割を理解できる。摂食・嚥下の評価法と訓練技術、口腔ケア等について基本的な知識と技術を身につける。
	嚥下障害Ⅲ DysphagiaⅢ	必修	講義	30	(1)		30	栄養、全身状態、認知、コミュニケーションなど総合的な観点から摂食・嚥下障害との関連を考察し、理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。

# 2019年度 教科課程

## 言語聴覚士専科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数 )	学年		講義概要
						1年	2年	
専門分野	発声発語学・ 嚥下障害学							
	吃音 Stuttering	必修	演習	30	(1)		30	吃音について特徴・経過・対応および発生の原因に関する理論や様々な立場からの見解を理解できる。吃音検査や他の流暢性に関する評価・訓練・指導方法について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	小児聴覚障害 Hearing Impairment in Children	必修	演習	30	(1)		30	小児期の聴覚障害と言語発達への影響について理解できる。障害特徴と評価・訓練・指導の基本的知識および国家試験に則した基礎知識を身につける。
	成人聴覚障害 (成人視覚聴覚二重障害含む) Hearing Impairment	必修	演習	30	(1)		30	成人期における聴覚障害の特徴と評価・訓練・指導の基本的知識について理解できる。情報補償と進学、就労への支援など、社会参加に向けた関連職種連携について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	補聴器・人工内耳 I Hearing Aid / Cochlear Implant I	必修	演習	30	(1)	30		補聴器・人工内耳などについて基本的な原理と補聴器適合検査や人工内耳の調整に必要な基礎知識を理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎知識と技術を身につける。
	補聴器・人工内耳 II Hearing Aid / Cochlear Implant II	必修	演習	30	(2)		30	補聴器・人工内耳などの装用と手術に関する基礎知識と聴覚補償について理解できる。臨床と国家試験に則した基礎知識を身につける。
	聴力検査 I Hearing Examination I	必修	演習	30	(1)	30		言語聴覚士が行う主な聴力検査について機器を用いながら基本的な知識と技術を身につける。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	聴力検査 II Hearing Examination II	必修	演習	30	(2)		30	聴力検査を通して得られる測定データを用いて、聴覚障害の種類や疾患について考察するための基本的な知識と技術を身につける。臨床と国家試験に必要な基礎知識を身につける。
	聴覚障害学論 Introduction to Hearing Impairment	必修	講義	30	(1)		30	聴覚障害について総合的に理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎知識を身につける。
	臨床実習	見学実習 Observation	必修	実習	40	(1)	40	
臨床実習 I Clinical Training I		必修	実習	200	(5)	200		実習施設において言語聴覚士の指導を受けながら対象者・児との円滑なコミュニケーション技術を身につける。症例について評価・考察を行い問題点抽出と訓練計画立案、目標設定、評価報告ができる。
臨床実習 II Clinical Training II		必修	実習	280	(7)		280	実習施設において言語聴覚士の指導を受けながら対象者・児との円滑なコミュニケーション技術を磨き、報告、連絡、相談の重要性を意識しながら言語聴覚療法を実践的に身につける。
その他	プロフェッショナルへの道 I Career Seminar I	必修	演習	30	(1)	30		言語聴覚士として働くために必要とされる医療人としての適性や対人援助の専門性について理解できる。自らの行動を通して医療職としての接し方や、より専門的なコミュニケーション力を身につける。
	プロフェッショナルへの道 II Career Seminar II	必修	演習	30	(1)		30	言語聴覚士として働くために必要な臨床能力について、より知識と理解を深めるとともに、明確な目標を設定し、主体的かつ積極的に取り組むことで職業実践の選択を拡げる力を身につける。